Ⅲ　つくば市立桜南小学校の実践

1　学校の概要

本校は茨城県の南部，霞ヶ浦と筑波山の間に位置するつくば市の東部にあり，豊かな自然環境に囲まれ，つくば研究学園都市に隣接した恵まれた地域にあります。児童数386名，教員数25名，学級数16学級の中規模校（平成16年度）で，そのうち知的障害特殊学級が１学級あり２名の児童が在籍しています。平成17年８月のつくばエクスプレスの開通と共に児童は増加傾向にあります。

学校の教育目標

「未来をみつめ　今をひたむきに　違いを認め合う　たくましい子どもの育成」の実現に向けて学校・家庭・地域との連携を図りながら，明るく楽しい学校づくりに努めています。

みらい学級経営方針

○　一人一人の児童の実態を把握し，日常生活に必要な基礎学力と規律正しい生活が身につくよう支援する。
○　楽しい学校生活が送れるよう，一人一人の児童理解につとめる。
○　協力学級との交流の場を設け，多くの児童とかかわりがもてるよう支援する。

みらい学級の教育課程

本学級は知的障害特殊学級であり，子どもたちが将来，社会生活に参加するために必要な教育内容は，基本的生活習慣の確立，集団生活への参加と理解など，より具体的で生活的なものであると考えています。生活単元学習を毎日１校時目に位置づけ帯でとるようにしています。また週に２回は１，２校時続きの時間を確保しています。従って週７時間を生活単元学習にあてています。音楽，体育，図工，総合的な学習などは子どもたちの実態に応じて通常の学級と交流をしています。

平成16年度　時間割表

時刻	月	火	水	木	金
8:40～8:50	通常の学級との交流及び朝の会				
8:50～9:35 1時間目	**生活単元**	**生活単元**	**生活単元**	**生活単元**	**生活単元**
9:40～10:25 2時間目	**国語**	２年　体育 ６年　音楽	**生活単元**	**２年　国語** ６年　学活	**生活単元**
10:45～11:30 3時間目	２年　生活科 ６年　図工	**国語**	**２年　算数** ６年　体育	２年　図工 ６年　社会	**２年　算数** ６年　家庭科
11:35～12:20 4時間目	２年　生活科 ６年　図工	**算数**	２年　体育 ６年　道徳	２年　図工 ６年　総合	２年　生活科 ６年　家庭科
12:20～1:55	給食・清掃・昼休み				
1:55～2:40 5時間目	２年　下校 ６年　音楽	２年　学活 ６年　総合	**２年　作業** ６年　理科	２年　音楽 ６年　音・体	帰りの会 桜南タイム 2:55
2:45～3:15 6時間目	2:55	２年　下校 **６年　算数**	2:55	２年　下校 **６年　国語**	

※**太字**：みらい学級での授業　　桜南タイム：ゆとりの時間
作業：作業的な活動を中心とした領域・教科を合わせた指導

2　単元「私たちのお店をひらこう」

（１）本学級における単元設定の考え方

本学級では，単元を計画するにあたって，次の３点を心がけています。
①子どもたちが「やりたい」「やってみたい」と思うような「きっかけづくり」
②子どもたちが「がんばれた」「できた」と思うような「できる状況づくり」
③他の教科と関連づけた単元の展開による「学校生活づくり」
この三つの観点に沿って単元を設定しています。
単元「私たちのお店をひらこう」では，特に①と②の観点を大切にして実践しました。

（２）単元「私たちのお店をひらこう」の設定理由

本校では毎年10月にＰＴＡ主催の「おうなんまつり」が行われます。ＰＴＡの役員が中心となり様々な催しを企画し，子どもたちを楽しませています。第４土曜日に開催されるため子どもたちの参加は自由ですが，ほとんどの子どもが参加している中，みらい学級に在籍している２名は一度も「桜南まつり」に参加したことがないということでした。その理由として，自由参加の形では自分の居場所が確保しにくいいためにどうしていいか分からず，不安になったり混乱したりすることが考えられるということで，保護者が参加に消極的になっているということを知りました。

本年度は，２名をなんとか「おうなんまつり」に参加させたいと思いました。今までは何かと受け身になってしまうことが多く，自分から次の行動を起こすことが苦手な２名でしたが，「おうなんまつり」に参加したいという気持ちが持てるように，きっかけがないかと考えました。そこで，お店を出すことにより２名が主役となり積極的に参加することができるのではないかと考え，この単元を計画しました。

（３）児童の実態

○６年生のＡさんは，慣れている人や場においては明るく活発で，自分の意思を言葉や文章で表現することができます。しかしそれ以外では，ほとんど言葉を発しないため，他の人と円滑なコミュニケーションをとることは難しくなっています。また，校内において教室移動を行う際も支援が必要です。

○２年生のＢさんは，表出言語は少ないのですが，声をかけられると笑顔で答えたり，手を振ったりすることでコミュニケーションをとることができます。自分のやりたいことが決まっており，時には頑固になる様子を見せるときもあります。最近は，「やらなくてはいけないこと」があることに気づき，日常生活の中で支援なしでできることが増えてきました。

（４）単元計画

表１に「私たちのお店をひらこう」の単元計画を示しました。単元「私たちのお店をひらこう」は，第６次までの小単元に分けられてあり，全部で47時間をかけて行いました。

表１　「私たちのお店をひらこう」の単元計画

単元計画（47時間扱い）

計画（2）

- **第一次　お店を開く計画を立てよう**
  - どんな物を売ろうかな（1）
    - ・おうなんまつりへの見通し
    - ・これまでの活動を生かして
  - お店の名前を考えよう（1）
    - ・親しみのあるお店の名前

準備（37）

- **第二次　売るものを作ろう**
  - ポチ袋を作ろう（10）
    - ・生単や作業学習の時間に作りためておく（６月～10月）
  - クッキーを作ろう（10）
    - ・まつり間際に重点的に集中して作る（２日間で）
- **第三次　品物の準備をしよう**
  - ラッピングをしよう（6）
    - ぽち袋，クッキーをクリアパックに入れる
  - ねだんをつけよう（3）
    - ・タックシールに値段を記入，貼る
    - ・「手作り」のシールを貼る
  - 宣伝をしよう（2）
    - ・チラシを作成し印刷して配布
- **第四次　お店の準備をしよう**
  - お店の看板や飾りを作ろう（3）
    - ・看板（ひともじずつ分担して）
    - ・値段表　・飾り付け（折り紙で）
  - お店やさんの練習をしょう（3）
    - ・慣れた場，慣れた人と。
    - ・交流学級担任や管理員さんにお客さんになってもらう

実践（2）

- **第五次私たちのお店を開こう**
  - （「おうなんまつり」当日）

反省（6）

- **第六次　反省会をしよう**
  - お金を数えよう（2）
    - ・金種にわける
    - ・金種別に数える
  - 反省会をしよう（2）
    - ・お茶を飲みながらリラックスした雰囲気の中で
  - お礼の手紙を書こう（2）
    - ・プリントを作成し印刷して配布

（５）単元の実際と子どもたちの様子

前述した単元設定の考え方で挙げた㈰と㈪の観点に従って，単元の実際と子どもたちの様子をまとめました。

子どもたちが「やりたい」「やってみたい」と思うような「きっかけ作り」

単元を開始する前に，「おうなんまつり」でお店を開きたいと，子どもたちが「やりたい」「やってみたい」と思うようなきっかけを作るための活動をまず行いました。「お買い物遊び」という子どもたちの好きな活動を通じて，「やりたい」と言う意欲を育てるよう取り組みました。実際の子どもたちの様子は次のようでした。

ア　子どもたちの好きな活動を手がかりとして

本学級の２名は仲がよくお互いに安心しあえる相手です。６年生のＡさんは２年生のＢさんによく話しかけ，活動への参加を促したり身の回りのことを助けてあげたりしています。普段の学習活動の中で２名がお気に入りなのは「お買い物遊び」です。多くの食品の絵カードとレジスター

を使い，お店やさんとお客さんになって売り買いをするのです。何度かこの活動をする中で気がついたことは，２名ともお店やさんの役になりたがっているということでした。

そこで，子どもたちが店員になり，担任が客になる設定で，活動を繰り返しました。絵カードの種類分けをし，店の種類もいくつか準備し，子どもたちの実態に応じて買う品物や買いに来る客に変化を持たせて様々な課題を盛り込みながら活動を進めていきました。（表２）

表２　「お買い物遊び」の内容と課題

設定したお客	活動の内容	課　　題
主　婦 （お母さん）	指定された絵カードを選ぶ	Ａ：複数組み合わせた物を正しく選ぶ 「イチゴとバナナとリンゴください」
		Ｂ：一つの品物を選ぶ 「イチゴください」
子ども	材料を考えて絵カードを選ぶ	Ａ：「カレーの材料ください」材料を自分で考えながら選ぶ
		Ｂ：この課題の時は何を選んでもＯＫとする
おばあさん	３ヒントクイズで買いたい物を推測する	Ａ：「①赤いくだもの ②種がついている ③皮はむかないで食べられる」クイズの答えの品物を選ぶ
		Ｂ：赤い物を選ぶ

この活動に慣れてきたところで，教室のすぐ側のロビーにおいてあった人形劇用の舞台をお店として利用することにし，活動の場を教室の外に移してみました。Ａさんは本学級の中では，明るく活発に話すことができるのですが，一歩外にでると話せなくなってしまうという事がありました。そこで教室からロビーへ場を移し，同じ活動を行ったところはじめは不満をもらしていたＡさんもすぐに慣れて，教室と同じように活動を楽しむことができました。

イ「やりたい」と思わせるしかけ

「お買い物遊び」の活動がややパターン化してきたころを見計らい，今度は本物の菓子（チョコレート・クッキー・せんべい・あめ・ポテトチップス）を準備し，役割を交代して行いました。Ｂさんは表出言語が少なかったのですが，絵カードで物の名前を覚え，発音ははっきりしないのですが，話そうとするようになっていました。しかし，日常生活の中では自分の欲しい物を選ぶことができず戸惑っている様子が見られました。そこで５種類の菓子のうちＢさんの好きなクッキーとあまり好きではないあめ・せんべいの３種類を意図的に並べてお店をひらくことにしました。するとＢさんは大好きなクッキーを指さして「これっしょっかなぁ」（「これにしようかなぁ」）と，言葉を発しました。

そして，子どもたちの気持ちの高まりを感じ，「おうなんまつり」にお店屋さんをやろうという話を子どもたちに持ちかけたところ，子どもたちは大喜びで乗ってきてくれました。

子どもたちが「がんばれた」「できた」と思うような「できる状況づくり」

できる状況を作るには，できるだけ自然な活動として取り組めるようにすることが大切であると考えます。教師側の意図だけが先行してしまい不自然な活動をさせようとすると，その場限りの学習になってしまう危険性があります。また，子どもたちが今できること，少し頑張ればできそうなこと，個々の得意なことなどに着目して，そのことによりよく取り組めるようにすることが大切であると考えます。

ここでは，単元計画の中から,「第二次　売るものを作ろう」「第三次品物の準備をしよう」「第四次お店の準備をしよう」「第五次私たちのお店をひらこう」の様子について紹介します。

①第二次－「売るものを作ろう」の活動から

ア　クッキーをつくろう

クッキーは，前の活動の様子から意欲的に取り組むことができると予想し，ぜひ作ることにしました。また，おうなんまつりでも食べ物はよく売れると聞いていたので，ちょうどよい品物でした。

Ａさんはお菓子作りの経験があり，自信をもって活動に取り組むことができました。Ｂさんは粘土遊びや白玉団子作りの時，手のひらを器用に動かしながら丸を作ることができたので，それを生かして生地を丸めてつぶす形のクッキーを作ることにしました。回数を重ね，大量に作るうちにＢさんはあわたて器を握ってＡさんと同じ事をやってみたいという意欲を表しました（写真１）。

写真１　「２人でなかよく」

イ　ぽち袋を作ろう

販売する品物のもう一つは「ぽち袋」です。子どもたちがこれまで取り組んできてできるようになってきた活動の中にＡさんはひも結び，Ｂさんは折り紙がありました。指先を使い集中して作業を行うため，普段の学習の中ではあまり子どもたちには喜ばれません。そこで，２人の作業の工程を組み合わせて一つの品ができるようにし，そしてできあがった品物は私たちのお店やさんで売ろうともちかけて，作る目的を明確にすれば，お互いに意欲的に取り組むことができるのではないかと思い「ぽち袋」作りを思いつきました。

Ｂさんは折り紙で端をきちんとそろえて２つに折れるようになりした。しかし，ぽち袋用に準備した紙は折り紙よりも厚口でしかもＡ４サイズであり正方形ではありません。それを三つ折りにするので，Ｂさんにとっては用紙がかたいうえに大きくて大変折りづらくなってしまいました。用紙にあらかじめ線を引いてみましたが，折るときにはその線はみえなくなってしまうので結局うまくいきませんでした。そこで，Ａさんは２つの物をそろえることができるということに着目し，折りたい幅に切った工作用紙の型紙を用意しました。それと用紙をそろえて，型紙の幅のところで折れば三つ折り」がうまくできるのではないかと考えました（写真２）。

写真２　「できるよ！」

Ａさんはこれまで生活の中であまりひもを結ぶという経験がなく自分でも必要感に迫られたことはありませんでした。細かな指先を使う作業は，どちらかというと自分でやらずにすんでしまう環境にあるため，経験不足のために苦手と思いこんでしまっている様子が見らました。そこで，結ぶ・切る・貼るなど手先を使って仕上げるぽち作りは，Ａさんが自信を持つためにとてもよい課題だと思われました。そして，Ｂさんと連携し一つの品物を仕上げるというのもＡさんにとっては励みになりました。はじめのうちは，１時間に一つ仕上がるかどうかのペースでしたが，たっぷりと時間を確保しながら丁寧にゆっくり仕上げていくように励ましました（写真３）。

作り方の要領を得てくると，いくつかをまとめて作るといった工夫もできるようになりました。また，販売する前に仕上がったぽち袋の一つを家に持ち帰り，保護者に褒めてもらったことで，ますます意欲をもって取り組めるようになりました。

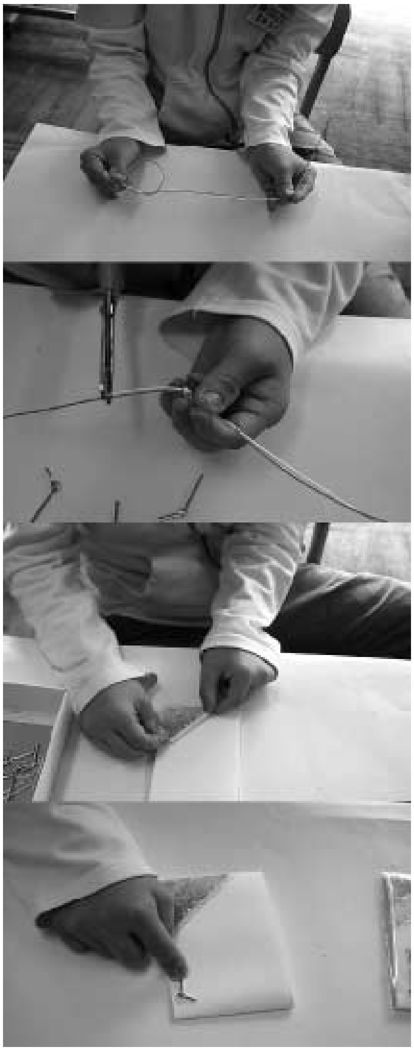

写真３「一つ一つ丁寧に」

②第三次－「品物の準備をしよう」の活動から

焼き上がったクッキーを声に出して数えながら五つずつ袋に入れる活動は，Ｂさんの課題である５までの数の習得を，結果的に大いに促すことになりました。これまで，おはじきやブロックなどを使い繰り返し練習してきましたが，定着するまでには至りませんでした。

はじめは五つの箱を用意し，そこから一つずつとっていくと五つになるように設定しましたが，慣れてきたところで一つの箱から五つとるようにしてみました。はじめＢさんは，数を数えるのではなく，自分が前に作った五つ入りの袋と見比べながら，注意深くクッキーを袋に入れていました。担任がＢさんの手に合わせてリズミカルに数えることを繰り返すとＡさんも一緒に声を合わせて数えてくれました。そのうち，Ｂさんも小さな声で数を唱えながら袋詰めをすることができました（写真４）。Ａさんは，Ｂさんが袋詰めしたクッキーにシールを貼り，すぐにお店に出せるように工夫して箱に並べることができました。そして，10袋ずつのまとまりごとにメモをはさみ，全部で200袋できたクッキーを数え終わると，ジャンプをしながら体全体で喜びを表していました。

写真４「ひとつずつね・・」

③第四次－「お店の準備をしよう」の活動から

ア　お店の看板や飾りを作ろう

お店の名前はＡさんの提案で「リトルマーメイド」になりました。「お買い物遊び」の時に使っていた人形劇用の舞台を飾り付けることにしました。Ａさんが主導権を握り看板を作ったり，値段表を書いたりしました（写真５）。Ｂさんも折り紙で栗の実をおって，お店に飾り付けました。このときは「先生，かんばんかっこよく作って！」という言葉がＡさんから出てきました。「みんなで一緒に作ろうね」と働きかけ，どのように一緒に作ったらいいか考えました。

写真５　ここでいいかな？

そこで意図的にお店の名前を一文字ずつバラバラに作り，文字を順番に並べてお店の名前を表すようにしました。Ａさんは写真６のように，のりで貼り合わせて文字を作る活動を，Ｂさんはできあがった文字の中からいわれた文字を選ぶ活動を盛り込みました。

写真６ 花びらさいごの１枚

しかし，Ｂさんはひらがなはなんとか読めるようになってきていましたが，カタカナはまだ難しかったのです。文字を全部ひらがなで作ればよかった…と思いました。たまたま「リ」は，ひらがなの「り」と形が似ていたために選ぶことができました（写真７）。その後はＡさんのリードで写真８のようなお店ができあがり，２人ともとても満足していました。

写真７ 「リ」はこれかな？

写真８　私たちのお店完成！

イ　お店やさんの練習をしよう

このあと，２人のお気に入りのこのお店で販売の練習をしました。Ａさんはお客さんが何をいくつ欲しいのかを聞いて品物をＢさんに渡します。Ｂさんはそれを袋に入れてお客さんに渡す役です。お金はＡさんが担当します。品物はすべて100円にして，おつりの計算も含めてＡさんが簡単に処理できるようにしました。初めは担任がお客になり，いろいろなパターンで練習をしました。だいぶスムーズにできるようになったところで，交流学級の先生や管理員さんにお客さんになってもらい練習をしました。

ところが，この活動始めると，Ａさんは，今まで流暢に発していた言葉がぴたりと止まり，表情も硬くなってしまいました。先生方がお客さんで来てくれたときは，Ａさんが金額をいうまでずっと待っていてくれたので，Ａさんは最後には金額を言うことができました。ところがいろいろな人が来るようになってから，Ａさんは緊張しはじめたのです。そこで，Ａさんと相談して，もしどうしても話すことが難しい場合は，「１つ100円」の看板を側に置いて，ここを指さすことにしました。Ａさんにとっては，一抹の不安を抱えながら「おうなんまつり」当日を迎えました。

④　第五次－「私たちのお店をひらこう」いよいよオープン！

その日はあいにく朝から冷たい雨が降っていました。私たちのお店をだす場所は，中庭のＰＴＡ本部テントの下でした。そこまで，飾り付けをした人形劇の舞台を運び，クッキーやぽち袋をきれいに並べました。子どもたちはいつもと違った雰囲気にちょっと興奮気味にはしゃいでいました。これならなんとかうまくやれるかな…と思っていました。ＡさんやＢさんの保護者もいざというときの支援のためにスタンバイしていてくれました。オープン前にＰＴＡの役員さんがお店に買いにきてくれました。「Ａさん大丈夫かなぁ」と思いながら様子を見守っていたところ，Ａさんは「200円」と金額を言うことができました。そしてＢさんも品物を袋に入れてお客さんに渡すことができました。前もってＡさんが書いたプリントを配布して宣伝しておいた効果があってか，お店の前はオープン前から長蛇の列ができていました。そしてオープンと同時に押すな押すなの大混雑となりました。

写真９　ぽち袋一つ100円です

Ａさんもはじめの２，３人に対してはきちんと値段を言うことができましたが，次のお客さんが一気に10個買い，その次のお客さんにはおつりを渡さなくてはならなくなり，混乱している様子がうかがえました。Ｂさんが担任の手をぎゅっとつかみ離さず，不安そうな様子でしたので，保護者にも応援をお願いし，みんなで一緒に販売を行いました。その結果，200袋準備したクッキーは開店後10分もたたないうちにあっという間に売り切れてしまいました。その後はぽち袋を買いに来るお客さんがぽつぽつとあり，落ち着きを取り戻したＢさんは，自分のペースで役目を果たそうと頑張っていました（写真９）。

（６）まとめ

Ａさんに感想を聞いたところ「もっと，(一人で）ちゃんとやりたかった。今度やるときは，ちゃんとやりたい」と話してくれました。「おうなんまつり」初デビューでしたが，本年度はじめて「おうなんまつり」に自分たちが主役となって参加し，上記のような感想をもつことができたということは大きな成果といえます。

子どもたちの生活や学習活動の様子をよく観察し，これならのってくるだろうなというところを見極め，あたかも自分たちが計画したかのように思わせるきっかけ作りは，子どもたちに「おうなんまつり」参加してみたいという意欲をもたせるのに重要な役割を果たしました。

また,「Ａちゃんすごいね」「Ｂちゃんのつくったクッキーおいしかったよ」「来年もやってね」など,「おうなんまつり」が終わったあとも，たくさんの友だちが声をかけていました。このことは日頃は受け身になることの多いＡさんＢさんが，お店やさんとして主体的に参加できたことで，周囲の友だちのＡさんＢさんに対するイメージが変容してきたことにつながりました。

今後は，活動の時間を保証するために，整理券や引換券を発行したりするなどお店にお客さんが集中しすぎないような工夫をしたり，うまくやり遂げられるような十分な支援の手立てを用意しておくことが必要だと思いました。

3　単元「つくって食べよう」

（1）生活単元学習における調理を中心とした学習

調理活動は，自分で調理をして食べるという明確な目的があり，子どもたちにとっても興味・関心の高い楽しい学習活動です。また，個に応じた支援のねらいを盛り込みやすく様々な学習内容を工夫することが可能であり，さらに一人一人の特性に応じて主体的に参加することのできる生活に根ざした，まさに生きる力を身につけることのできる学習であるといえます。これらのことをふまえて本学級では，生活単元学習において毎月１回の調理学習を年間の学習計画（表１）の中に位置づけ，支援のねらいを明確にしたうえで，学習内容を組み立て実施しています。

本学級で調理学習を行う際に，ねらいとしているのは次の５点です。

表１　生活単元学習における調理学習の年間計画

生活単元学習		
月	調理以外の活動	調理活動
4	・新しい学年（自己紹介） ○春を見つけよう（よもぎつみ）	よもぎだんごをつくろう
5	・野菜を育てよう ○パン屋さんに行こう	パンをつくろう
6	・あめふりたんけん ・ざりがにつりに行こう	ホットケーキをつくろう
7	・七夕集会をしよう	じゃがいもをたべよう
9	・運動会をがんばろう	インスタント食品を食べてみよう
10	○おうなんまつりに参加しよう（模擬店）	クッキーをつくろう
11	・笠間焼きに挑戦しよう ○さつまいもパーティーをしよう	さつまいもをたべよう
12	・作品展の作品をつくろう ・合同校外学習に参加しよう	ケーキをつくろう
1	・新年を迎えて ○ならせもちを飾ろう	おもちをたべよう
2	・冬の遊びを楽しもう	チョコをつくろう
3	・１年間のまとめをしよう ○お楽しみ会をしよう	サンドイッチをつくろう

①　目と手の協応，皮をむく，こねる，袋を破るなど両手や指先を多く使わせることをねらいとする感覚統合能力を伸ばすことを中心においた調理学習

②　包丁の使い方，ガスや調理器具等の扱い方を中心においた生活技術を習得させることをねらいとする調理学習

③　食べる楽しさ，調理する楽しさを中心として，子どもたちの興味・関心・意欲を育てることをねらいとする調理学習

④　みんなで話し合って，役割分担をしっかりとおさえ一つのものを作り上げるなど集団活動の中でコミュニケーション能力を育てることをねらいとする調理学習

⑤　一人でできる料理の数を増やし，将来の自立の基礎となることをねらいとする調理学習

他にもねらえることは多々あるかとは思いますが，子どもたちの発達段階や，生活年齢などを十分に考慮しながら，家庭とも連携を図っていくことが大切であると考えます。

（2）生活単元学習と他の教科との関連

本学級では，単元設定の考え方で述べたように，指導計画の作成に当たって，生活単元学習と他の教科の学習が密接にかかわり合うように計画しています。表２は各教科との接点をおさえながらたてた調理学習の計画の一例です。このように計画すると，学校生活全体を通してまとまり

のある活動ができ，子どもの実態に応じて指導の工夫ができます。子どもたちに「こんど○○の調理をするから，このお勉強をがんばろうね！」と，持ちかけると学習に対する取組が一段と意欲的になります。また，各教科で学習した内容をすぐ実践の中で生かせるという利点もあります。

表１　生活単元学習における調理活動と他の教科との関連

学習時間	学　習　内　容	教科的視点
1〜3	○献立を考え,材料を考える。 ○材料はどこで売っているか。 ○値段はいくらぐらいか，どれくらい買えばよいか。	国　語 社　会 算　数
1〜3	○買い物に行く。自分たちで支払いもする。 ○材料を分ける。（種類や保存の仕方などで）	社　会 算　数 理　科
2〜3	○調理を行う。（手洗い，身支度，安全面，器具の取り扱い） ○手順に従って作る。（材料の計量，調理時間） ○後かたづけ。	家庭科 国　語 算　数
1〜2	○事後の作文を書いたり絵を描いたりする。	国　語 図　工

（３）子どもの実態

６年生のＡさんは，毎週日曜日の朝食は，お父さんと一緒に近所のパン屋さんで食べることが習慣となっていました。自分で食べたいパンを選び会計を済ませた後，喫茶コーナーがあり店内で食べることができます。Ａさんはパンは買って食べるものというイメージ持っていましたので，「パンを作ろう」と話を持ちかけたときは，驚きと同時に作ってみたいという気持ちを全身で表していました。

２年生のＢさんは，最近好きになったキャラクターに「アンパンマン」がありました。絵本やパズルなどアンパンマンの出てくるものは大好きです。パンの名前も分かるものがあり，歌も歌うことができました。しかし，実際にはパンの名前と実物が一致しないということもありました。

（４）単元計画と活動の実際

子どもの実態や思いを受けて，図１のようなパン作りの単元計画を立てることにしました。

（1）パンを作ろうの活動

①第一次　パンの仲間集めをしよう

Ｂさんは，まだ物の名前と実物をうまく一致させることができません。はじめは絵カードを使っていましたが質感が乏しいせいかなかなかうまくいきませんでした。そこで，ままごとのパンや家庭科室の食品の模型を用意し使ってみました。しかし，Ｂさんにとっては，どれも作り物で本物ではないというとらえ方なのでしょうか，「パンはどれ？」と聞いても反応がありません。

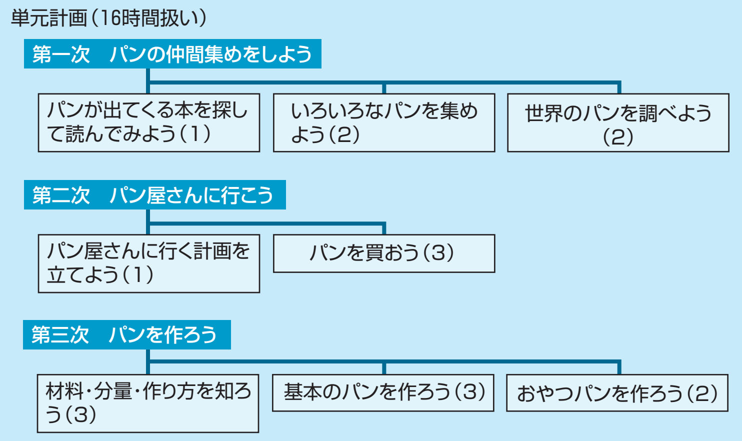

図１　「パンを作ろう」の単元計画

一方で，給食当番の際「今日はパンを配ってね」といわれると，パンを配ることができます。Ｂさんは具体物と半具体物を一致させるところの理解が難しいと思われました。そこで，実物を使って行ってみました。パン，野菜，果物など普段の生活の中でＢさんが目にしているようなものを準備し,「パンはどれ？」というと，迷わずに選ぶことができました。

次に，Ｂさんの見ているところでデジタルカメラで写真を撮り，プリントアウトして写真カードを作りました。そして，実物と写真カードのマッチングを行ってみました。これも，はじめのうちは写真カードをよく触ったり実物と見比べたりという様子が見られましたが，うまくマッチングさせることができるようになりました。慣れてくると，実物がなくても「パンはどれ？」というと写真カードの中からパンを選ぶことができるようになりました。

本校では，学校給食において様々な国の料理を献立として用意するように工夫をしています。パンの種類も様々で，ナン，ピタ，デニッシュ，クロワッサン，ベーグルなどバラエティに富んでいます。Ａさんはそれらに興味を持ち，世界の国とそこで食べられているパンについて，インターネットや図書で調べる活動を行い，それがパンのクイズブック作りに発展しました。

②第二次　パン屋さんに行こう

目的のパン屋さんは学区内にあり，Ａさんは毎週徒歩で行っています。Ａさんに学校からパン屋さんまでの絵地図を書いてもらい，当日はそれを見ながら歩いていきました。Ａさんが地図に表したとおりに歩道橋，コンビニ，信号など目印となるものをたどりながら途中で，学校の主事さんから預かった郵便物をポストに入れる仕事もしました（写真１，２）。

写真１　さあ，出発だよ

パン屋さんまでは徒歩で20分ほどでした。２人とも元気に歌を歌いながらパン屋さんまで行くことができました。

写真２　うまくはいるかな？

Ａさんの案内で無事に到着し，Ａさん自身もＢさんと担任を連れてきてあげたんだ，という満足感でいっぱいだったようです。次の日曜日にお父さんとパン屋さんに行ったとき，その時のことを得意になってお父さんにお話ししたことを，後ほど保護者から伺うことができました。

パン屋さんに行く目的の一つに,「自分で選ぶ」ということがありました。これは本学級の基礎・基本の一つにあげている「自己選択や自己決定できる力を養う」がバックボーンにあります。自分の意思をはっきり相手に伝えることや自分で選んだり決めたりするということは，自分自身に責任を持つと言うことです。どちらかといえば何かと手助けしてもらうことが多くみられたＡさんですが，結果として自分でやるという経験が少なくなっているように思われました。自分の好きなものを選ぶという小さな事から経験させたいと思い，そこで一人ずつパンを買うことにしました（写真３）。

写真３　これにしようかなぁ

事前にBさんの保護者に活動の内容を伝えそれに関する情報をもらいました。Bさんにとっては，トングを使い自分の好きなパンを選ぶということは初めての経験でした。いつもはお母さんがやっていることを自分もやっているということがとてもうれしかったようです。レジでは，お金も自分で払いました（写真４）。Aさんはパンを選び買うことは，これまで何度も経験があるのでスムーズにできました。しかしこの時のAさんの課題は，アイスクリームを注文することでした。パンを買い終わった後，お店の中でアイスクリームを食べることにしました。

写真４　これでいいですか？

写真５ Bちゃん私と同じでいいの？

Aさんは，慣れていない人とお話をするのが苦手という実態があります。そこで，全くはじめてでもなく，お店の人とも顔見知りという場の中で，どうしても自分の意思を伝えなくてはならない状況を設定したら，話すことができるかもしれない，と考えました。はじめのうちはなかなか言えずに，担任の顔を見ては「先生，言ってよ！」と助け船を求めてきましたが，ショーケースのところについている好きなアイスの名前を読めばいいことを伝えました（写真５）。自分の分を買うときは「マンゴー」と，本当に書いてある字を読んだだけでしたが，Bさんの分を買うときには，「マンゴーください」と言うことができました。自分の好きなものを自分で選びそれを伝えることができた嬉しさは格別だったようです（写真６）。

③第三次　パンを作ろう

Aさんは調理実習には意欲的に取り組み，話もよく理解することができます。また，調理のだいたいの手順を理解することができます。台ばかり・計量カップなどでは，大まかな分量は量ることができます。これから調理実習を重ねていくことで，調理器具の取り扱いや食べ物を作るということに自信をもって取り組めるようにしていきたいと考えました。

写真６　自分で買えたよ！

Bさんは調理実習には興味を示し，やりたいという意欲を示します。作り方の手順など，言葉だけでの理解は難しい面がありますが，実際にしたことを見てまねようとします。

写真７　写真カードによる板書

言語は少ないのですが，最近は自分一人でやってみたいという気持ちがでてきました。

Bさんは写真カードと実物のマッチングができるようになってきたので，材料や用具などを写真カードで示し，理解を促しました。また作り方の手順についても，写真カードで表し，いつでも振り返ってみられるように工夫しました（写真７）。

子どもたちはよく食べているパンが，小麦粉からできていて，混ぜ合わされた材料が変化していく過程に大変興味をもちました。Aさんは，台ばかりや計量カップの正確な計量にも慣れ，電子レンジやオーブンの使い方もできるようになりました。

（2）ホットケーキを作ろうの活動

本学級では「読むこと・書くことに」支援を必要とする3通常学級年生のCさんが，体験交流を行っています。材料や用具について言葉カードを準備し，正しく読んだり写真カードとマッチングさせたりしました。また活動の事後には，Cさんがホットケーキを作っている写真が入っているワークシートを作り，国語の学習に使いました。初めは「誰が～する」という二語文から少しずつワークシートの枠を変えていき，「その時にどう思ったか」や「つなぎことば」なども入れながら，最後には学習したことを組み合わせて作文を書くことができました。実際に自分で体験した楽しい活動を写真を見ながら思い出して書けるので，大変有効でした。

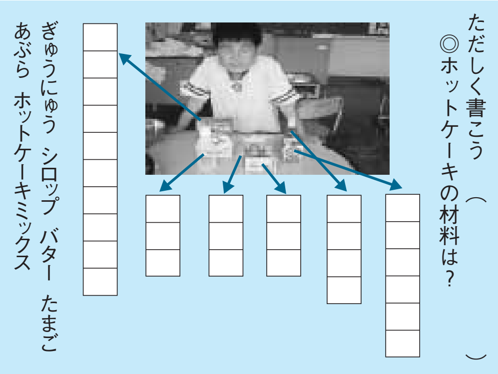

図2　ワークシート

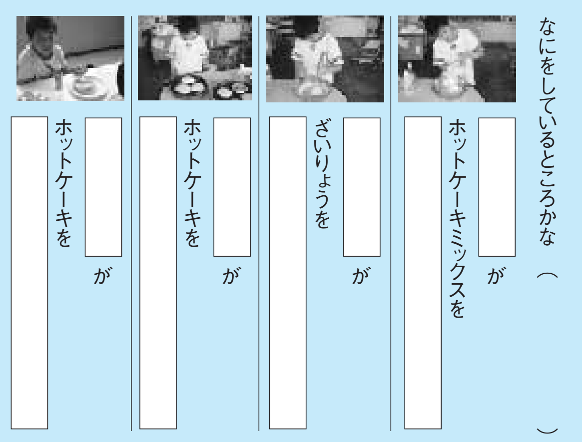

図3　ワークシート

ホットケーキ作りの活動は，Aさん，Bさん，Cさんの三人で行いました。AさんとBさんは大変仲がよくていいのですが，反対に，新しい友だちを受けつけないという様子が見られました。特にAさんは，慣れていない人に対して，お話をすることが苦手なので，コミュニケーションを持たざるを得ない状況づくりをすることを心がけました。活動の中でCさんが卵を割ろうとしたがうまく割れずにAさんに頼みました。Aさんは「自分でやって！」と無愛想に応えましたが，きちんと割ってあげていました（写真8）。また，Bさんが材料を混ぜ合わせるときもCさんと一緒にボウルをおさえている姿が見られました（写真9）。

写真8　こうやるのよ

会食の時も，Cさんは明るくAさんやBさんに話しかけるので，Aさんも仕方なく応えたり，手伝ってあげたりすることが多くなりました。BさんもCさんの名前を覚えて，教室の外でCさんを見かけたときなど，「あっ，Cさんだ！」と親しみの気持ちが出てきました。

写真9　おさえてるからね

（５）おわりに

以上のように調理学習は，子どもたちが意欲をもって取り組むことのできる学習です。その中で効率よく子どもたち一人一人の実態に応じて，内容をいくらでも臨機応変に変えていくことが大切です。調理学習を計画的に行うことによって「食べる物を作る」「作って食べる」ということそれ自体に喜びを感じ，それはすなわち生きる意欲を生み出すと考えます。

また，単元の展開に当たって，教科での学習と関連づけて行ったことが有効であったと考えます。例えば，国語の時間にホットケーキの材料を書く学習を行ったり，作文を書いたりする学習を行うことで，学校生活にまとまりができ，子どもたちの意欲が高まり，生活に結びつく活動ができたように思われます。

６年生のＡさんは，これらの活動を通して，土日に家庭で朝食を作ることに大変意欲を見せるようになったとのことです。

今後は「買い物をする」ことを活動の中心に位置づけることが必要であると考えています。地域のスーパーで必要なものを必要な分だけ買うことと，お金の使い方も合わせて学習することで，実際の生活に一層生かせるようにしていくことが大切であると考えています。